

15の基本計画を構成する60の施策の評価

上越市教育委員会

実施計画の平成20年度結果について、次のように評価をする。各小項目において、成果指標の平成20年度計画を大きく超えて達成した場合は()、目標どおりの場合は()、取組が不十分な場合は()とする。

基本計画1 学ぶ意欲と確かな学力の定着を促す学習指導の改善

施策1「基礎・基本の定着と自ら学ぶ力の育成を図るカリキュラムの構築」

目標(評価)

学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容を確実に身に付け、自ら学び考え表現する力を育むために、各々の学校がもつ課題や求められている今日的要請を総合的にふまえたカリキュラムの構築を推進します。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
各学校が「上越カリキュラムプラン」に基づき、主体的にカリキュラムを構築する(校長に対するアンケート評価による)(19年度現在、0%)	50%以上	ほぼ100%が取り組んだ

施策2「学習意欲を高める指導力向上研修の推進」

目標(評価)

目当てや目的をもって学ぶことは学習意欲を高め、学ぶことの喜びと楽しさを感じとることにつながります。このことは継続して学ぶことの原動力になります。学習の意義や内発的な興味・関心に着目した学習指導のあり方をみがきあう研修を行います。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
理科学年別研修、職種・課題別研修、授業力向上研修、学校力向上研修の参加者が研修内容について満足する。(参加者へのアンケート評価)(19年度現在、75%程度)	満足の達成度70%以上の講座が80%以上	3講座について95%~100%の満足度が得られた
情報セキュリティ及び校務情報化研修会を実施する。(19年度現在、9割程度参加)	全小・中学校が参加する	全小・中学校1500人が参加

施策3「思考力や表現力を育成するための学習指導の見直しの推進」

目標(評価)

ますます進展していく情報化社会にあって、能動的に生きていくためには「知識」を関係付けしていく思考力や自己の思いや考えを伝える表現力が重要になります。思考力や表現力を育む学びの場を教育活動全体の中で重視していくことを促します。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
理科学年別研修、職種・課題別研修、授業力向上研修、学校力向上研修の参加者が研修内容について満足する。(参加者へのアンケート評価)(19年度現在、75%程度)	満足の達成度70%以上の講座が80%以上	3講座について95%~100%の満足度が得られた

施策4「学習習慣の形成のための啓発の推進」

目標（評価）

学習意欲をもち、主体的な学びを生み出すためには学習習慣の形成が大切です。学習習慣を形成する学習指導や家庭学習のあり方についての啓発を推進します。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
上越版学校教育ハンドブックを活用し、家庭と連携した取組を実施する学校数を増やす。（19年度現在、取組なし）	作成のための調査と準備を行う	作成のための準備を行った

施策5「読書活動の推進」

目標（評価）

読書は人間の思考力を養う上できわめて大切です。主体的に学び取る力や思索する力、豊かな表現力を育てます。子どもたちが、読書に親しみ、読書習慣を身に付けられるよう読書活動を推進します。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
図書館における児童生徒用の図書貸出数を高める。（19年度末現在 246,097冊）	250,000冊	270,514冊
利用しやすい学校図書館等の環境を整え、読書の機会を充実する。（「上越市学校教育実践上の重点」の年度末評価における4段階評定）（19年度現在 85%程度）	肯定的評価 90%以上	肯定的評価 95%

基本計画2 思いやりに満ちた豊かな心の育成のための活動の推進

施策1「人間尊重の精神に即したたくましく生きる力を育成する活動の推進」

目標（評価）

人と人とのふれあいや生活体験の中から命の大切さや思いやる心、善悪の判断などの規範意識や公共心などがはぐくまれています。このような学びの場の確保を進めます。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
家庭や地域との連携を図り、生命を尊重する心や倫理観・規範意識を養う豊かな体験活動を実施する（「学校教育実践上の重点」の年度末評価における4段階評定で）。（19年度現在、75%程度）	肯定的な評価をする学校が80%以上	肯定的評価 小学校 90.8% 中学校 95.4%

施策2「あいさつや言葉遣いなど「ことば」を大切にした学校生活の実現」

目標（評価）

「ことば」には自然に気持ちや態度が現れてきます。「ことば」を大切にすることでよい人間関係を築き、相手を尊重する心を育てることが出来ます。「ことば」の大切さについてあらゆる学校生活の場面で指導を進めます。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
全校体制で望ましいあいさつや言葉遣いに関する効果的な取組を実施する（学校関係者評価で効果を評価する）。（19年度現在、75%程度）	効果的な取組を実施した学校が80%以上	80%以上の学校で効果的な取組を実施

施策3 「いじめを許さない、見逃さない正義感のある子どもの育成と人権教育の徹底」

目標（評価）

他人の心の痛みを感じ取れるとともにいじめを絶対に許さないという気持ちを一人一人の心の中に育てていきます。「いじめ防止学習プログラム」や「人権同和教育指導計画」の点検と確実な実践を促します。

成果指標

評価内容	平成 20 年度計画	平成 20 年度結果
児童生徒のいじめ、不登校等の予防のための取組を、中学校区単位で行う。（19 年度現在、22 中学校区で実施）	22 中学校区で実施する	22 中学校区で実施
生徒指導上の諸問題の発生数を減らし、解消率を高める。	前年度より向上	解消率 90% 以上を維持

施策4 「自らの存在や行動に自信と誇りがもてる子どもの育成のための教育相談体制の整備」

目標（評価）

いじめや不登校に悩む子どもたちに寄り添い、自己肯定感や存在感を高めることで、よりよく生きていこうとする自信と誇りをもった子どもを育てていきます。このための相談体制の整備を進めていきます。

成果指標

評価内容	平成 20 年度計画	平成 20 年度結果
相談者に寄り添った相談で、問題の軽減・解決を図る。	相談でのトラブルを 0 とする	トラブルは 0 件

基本計画3 健やかな身体を育成する環境の整備

施策1 「家庭や地域と連携した生活習慣の改善と健康づくりの推進」

目標（評価）

調和のとれた食事、適切な運動、十分な休養や睡眠をとることは、子どもたちの健やかな身体づくりの基本です。子どもたちが自らの健康に関心をもち、健やかな身体づくりに取り組めるように家庭や地域と連携して生活習慣の改善を推進していきます。

成果指標

評価内容	平成 20 年度計画	平成 20 年度結果
適正な生活習慣であると感じている保護者の意識が改善されている（外部評価）。（現在の数値なし）	80%の学校で改善する	全学校で学期に 1 回強調週間を実施

施策2 「体力づくりの推進」

目標（評価）

運動に親しむ機会を増やし、運動する喜びを味わうことで体力づくりができるように推進していきます。また、生涯を通じて楽しめるスポーツと出会う機会を創出していきます。

成果指標

評価内容	平成 20 年度計画	平成 20 年度結果
全小中学校で行うライフスタイル調査で運動習慣の形成について、男子は小・中ともに 90%（18 年度小3、4 年 87.8%、小5、6 年 89.6%、中 85.4%）以上、女子は小学校全学年 80%以上、中学校は 70%（18 年度小3、4 年 83.6%、小5、6 年 75.7%、中 61.5%）以上を目標値とする。	ライフスタイル調査の準備をする	調査の準備を開始した

体力テストにおいて、県平均より優れている種目の割合が小学校男子で60%以上(19年度52.1%)、小学校女子で50%以上(19年度37.5%)、中学校男子で80%以上(19年度70.4%)、中学校女子で70%以上(19年度59.3%)を目指す。	目標達成を目指す	県平均を上回っているのは小学校女子のみ
--	----------	---------------------

施策3「食育の推進」

目標(評価)

自らの健康に関心を持ち、食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身に付けるように「食育」を推進します。「上越市食育推進計画」と連結して推進していきます。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
食育全体計画、指導計画を改善し実施する。	全小中学校で実施する	全小中学校で実施
フッ化物洗口を普及拡大する。	全小学校で実施する	全小学校で実施
朝食の摂取状況の向上を図る(毎日食べる児童生徒の増加)。(18年度 85%)	調査の準備を行う	調査準備を開始

基本計画4 夢・希望・未来につなぐ教育の推進

施策1「コミュニケーションを大切にしたICT教育の推進」

目標(評価)

インターネットや情報機器を活用することで学ぶ意欲を喚起し、情報を主体的に活用する情報活用能力を向上させます。人と人とを結ぶためのコミュニケーションの道具としてICTの活用を考えるとともに、情報モラルの向上を図っていきます。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
教職員のICT活用指導力(文部科学省による調査)を向上させる。(19年度 30%程度)	「できる」が40%以上	「できる」が72%

施策2「国際化に対応した教育の推進」

目標(評価)

広い視野をもち、異文化を理解し積極的に交流を図ろうとする態度を育てるとともに、日本や外国の文化・歴史に対する理解を深めるための機会を設けます。また、日本語を母語としない児童・生徒に対し日本語指導や学習指導を行い、学校生活や授業に早期に適応できるよう支援します。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
日本語支援を必要とする外国籍児童生徒が増加している実態を受け、ニーズを踏まえた個に応じた適切かつ迅速な日本語支援を実施する。(19年度 100%実施)	実施率100%	実施率100%
英語指導等を通じた国際化に対応した教育に関する有効性を評価する(所属校勤務評定による)。(19年度 94%の肯定的評価達成)	90%以上	肯定的評価94%

施策3「地球環境を積極的に守ろうとする教育の推進」

目標（評価）

身近な自然環境や地球環境問題に対して常に問題意識をもち、積極的に環境保全に取り組む姿勢や実践的な態度を育む学習の充実を促します。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
各学校が環境問題への理解を深め、環境保全や省エネルギー、省資源などの具体的な活動を実施する（実践上の重点の年度末評価4段階評定による）。（19年度 2段階以下は18%）	2段階以下の学校数が15%以下を目指す	小学校 25% 中学校 30%

施策4「未来を自分の力で切り開く教育の推進」

目標（評価）

様々な社会変化に対応し、自らの力で将来を切り開いていくことのできる態度や能力を育むための教育を計画的に進めます。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
働くことの意義、自分の将来について、明確な考えがもてる（中学校キャリアスタートウィークのアンケートによる）。（19年度 60%程度）	達成率70%以上	90%以上が明確な考えを持てた
各校でキャリア教育の研修会を実施し、教育課程に位置づける（実践上の重点の年度末評価による）。（19年度 60%程度）	肯定的評価をする学校が70%以上	小学校 74.1% 中学校 90.9%

施策5「幼児期における教育の推進」

目標（評価）

親や家族の深い愛情によって育てられる子どもの環境を大切に、幼児期における道徳性や生活習慣、創造的な思考や感性、体力などの発達を豊かな学びの中で行えるよう推進していきます。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
市立幼稚園において幼児学習活動が円滑に行われている状態を維持する（保護者アンケートによる）。	幼児学習活動が円滑に行われる	各項目で85%以上の評価

基本計画5 自立と共生を目指す特別支援教育の推進

施策1「学習障害（LD）や注意欠陥／多動性障害（AD／HD）、高機能自閉症の子どもたちと保護者の立場に立った特別支援教育の推進」

目標（評価）

特別な支援を必要とする子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、自立と社会参加への主体的な取組を目指した教育的支援が必要です。

小・中学校における特別支援教育の校内体制づくりを進めるとともに、様々な理由で支援を必要とする子どもとその保護者に対して支援する体制を整えます。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
特別な支援を必要とする子ども一人一人について、個別の指導計画を作成して、教育的ニーズに基づいた教育的支援を実施する。	作成状況を把握し、支援する	指導計画のP D C Aが実践されている

施策2「発達障害がある子どもへの支援体制の充実」

目標（評価）

学習障害や注意欠陥／多動性障害、高機能自閉症等の子どもたちの早期発見と、一人一人のニーズに応じた適切な教育的支援を進めるための学校の支援体制や教職員の研修体制を充実させます。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
市内のすべての小中学校において、特別な支援を要する児童生徒の実態を把握したり、効果的な指導方法を共有したりする校内委員会を定期的開催する。	実態把握調査を実施し、校内委員会を整備する	校内委員会を実施し、情報を共有した

施策3「共に学びあう体制の推進」

目標（評価）

さまざまな障害のある子どもたちが学校や地域社会の中で受け入れられ、相互に理解を深めていける統合教育を推進します。そして、障害のある、なしに限らず、すべての子どもたちが一人一人のニーズに応じて学びあうインクルージョンを目指します。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
一人一人の教育的ニーズに基づいた指導支援ができる学習環境を整える。研究や研修を通して統合教育について理解を深める。	ニーズに基づく指導支援を行い、統合教育についての理解を深める	地域内支援体制の試案を検討

基本計画6 互いに認めあい共に生きる社会を目指す教育の推進

施策1「人権・同和教育の推進」

目標（評価）

あらゆる差別解消のため、人権意識の啓発を進め、さまざまな機会や場面を通じて人権・同和教育を推進します。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
人権講話会、現地学習会での参加者の理解度を高める。 (19年度 95%)	95%以上	理解度 98%

施策2「男女平等の正しい意識づくり」

目標（評価）

「上越市男女共同参画基本条例」に基づき、男女が、社会の対等な構成員として、個性と能力を発揮し、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画できる社会の実現を目指します。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
教育委員会所管の評議会、委員会等においてクォーター制を実施する。(19年度末 47.4%)	女性委員 48%	女性委員 48.7%

施策3「子どもの人権の尊重のための仕組みづくり」

目標（評価）

いじめや児童虐待を学校や地域で早期発見・早期対応する組織づくりの充実に努めます。また、「上越市子どもの権利に関する条例」に基づいて子どもの人権を尊重するための取組に努めます。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
いじめや児童虐待を早期発見早期対応する組織と密接な連携を図る。	実施する	日常的・定期的な連絡の実施

基本計画7 家庭と子どもの育成環境の整備

施策1「子育てについての側面的支援の推進」

目標（評価）

公民館事業や地域活動の中から自主的な子育て支援グループができるように、情報の提供や相談をするなどの側面的な支援を積極的に行います。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
地域SNSを通して家庭教育や育児体験の必要性を広める。	地域SNS参加者500人以上	親子合わせて535人が登録

施策2「親になる前からの家庭教育の推進」

目標（評価）

小・中学生での育児体験や家庭教育を学ぶ機会を作り、親になる前からの教育を推進します。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
全中学校において、授業で保育に関する学習を行うとともに、乳幼児とかかわる体験活動を設定する。	全中学校において、授業で保育に関する学習を行う	全中学校での家庭科の授業において実施

施策3「基本的生活習慣の形成の重要性についての啓発」

目標（評価）

子どもが健やかに成長していく上で、年齢相応の基本的生活習慣を身に付けることが重要です。望ましい生活習慣とそれらを身に付けることの必要性についての啓発を行います。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
上越版学校教育ハンドブックを活用し、基本的生活習慣の形成の重要性についての啓発を行う。	作成準備をする	作成の準備をした
全国学力・学習状況調査において、朝7時前に起きる子どもが、小学生80%以上、中学生75%以上。 (19年度 小学生75.1%以上、中学生73.8%)	小学生80% 中学生75%	小学生89.8% (全国75%) 中学生75.9% (全国65.1%)

施策4「家庭・地域での子ども読書活動の推進」

目標（評価）

子どもの読書活動の重要性を市民一人一人が理解し、家庭や地域のあらゆる機会に読書を行うための環境づくりを進めます。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
「みんなの本だな」を設置することにより、身近に読書に親しめる環境づくりを進める。	60か所以上の設置を行う	69か所に設置
図書館における児童図書貸出数の増加。 (19年度246,097冊)	増加	270,514冊

施策5「子どもの居場所づくりと子どもを支える連携組織の検討」

目標（評価）

子どもたちが安心して自分らしく過ごせる居場所が、身近なところにあることが大切です。各学校を基本とした居場所づくりを進め、子どもたちを育てる体制づくりとして、既存の組織等との連携で地域内の教育交流を進めます。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
(仮称)地域青少年育成会議をすべての地区で設立し、地域が主体的に地域の教育活動を考える体制を整える。	モデル地区で設立する	モデル5地域を設定

基本計画8 生きがいもてる生涯学習環境の整備

施策1「学習機会の充実と情報提供による自ら学べる仕組みの整備」

目標（評価）

様々な現代的な課題に対応するため、大学、NPO、企業等と連携し学習機会の充実を図ります。また、自ら学ぼうとする市民の学習ニーズに応じた情報提供の仕組みを整えます。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
生涯学習情報「キャッチ」への新規登録件数を増加させ、学習の場の拡充を図る。	新規登録件数20件	45件
学習情報の充実を図るため教育委員会ポータルサイトを立ち上げる。	試験的運用を行う	平成20年11月サイト試験的運用開始

施策2「学びあう力、教えあう力を育てる場の開発」

目標（評価）

意欲的に学べる仕組みをつくとともに、学んだことを生かし、高めあい、伝えあう学習の場の設定を検討します。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
教育委員会ポータルサイトを利用した学習の場の設定を検討する。	試験的運用を行う	試験運用の実施（H21.3.31本格実施）

施策3「青少年の活動の機会と場の開発」

目標（評価）

青少年の時期に、ボランティアや多様な体験活動を企画し、豊かな人間性や社会性を培っていきます。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
各種青少年事業の参加者の満足度90%以上を維持する。 (19年度 謙信KIDSスクールプロジェクト事業参加者の満足度92.7%)	90%以上	満足度95%

施策4「身近な施設の有効活用」

目標（評価）

身近なところで自由に集まり話し合える場が、団体や地域の活動に欠かせません。施設の管理も含め社会教育施設の有効活用を検討します。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
公民館を含む生涯学習施設等の利用促進を図る。 (19年度 約46,000件)	前年度より向上	約47,000件

施策5「図書を身近に利用できる図書館、読書活動の推進」

目標（評価）

生涯学習の意欲を高めるため、身近に図書を利用できる環境づくりと読書活動を進めます。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
「みんなの本だな」を設置することにより、身近に読書に親しめる環境づくりを進める。	60か所に設置する	69か所に設置
図書館における市民一人当たりの図書貸出冊数を高める。(19年度末 3.7冊)	年間3.7冊以上	年間3.9冊

基本計画9 公民館を中心とした社会教育の推進

施策1「身近な公民館で学習機会(社会教育)の提供」

目標（評価）

住むところの地域の自然・歴史・文化を学ぶことで、自らの郷土に誇りをもち、その地域の魅力を発信していくことができるよう、そのための講座の企画・支援に取り組みます。また、地域や社会の課題に対応するために必要な講座を、すべての地区公民館で提供できる仕組みをつくれます。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
特色のある講座が展開できるよう効果的なメニューづくりに取り組む。	評価方法を見直し、アンケートを統一する	評価方法に満足度を取入れ統一して実施

施策2「生涯学習の情報提供と相談」

目標（評価）

地域で何かを学ぼうとするとき、そのことについての情報が不可欠です。気軽に学び、相談ができる体制に努め、市内で行われている公民館講座の情報の共有化を図ります。

成果指標

評価内容	平成 20 年度計画	平成 20 年度結果
ポータルサイトを活用し、市内各地域で開催される生涯学習情報を共有する。	ポータルサイトを運用する	公民館講座を掲載

施策 3 「団体やボランティア、指導者の育成」

目標（評価）

各種講座を、市民自らが主体となって企画・実施できるよう、団体やボランティア育成支援を行います。

成果指標

評価内容	平成 20 年度計画	平成 20 年度結果
公民館で学んだことを、一般市民対象の公民館講座で講師や補助講師をすることによって、身につけた知識や技術を生かす。	指導者育成講座を 2 講座開催する	2 講座開催

基本計画 10 豊かな地域文化の振興への支援

施策 1 「感動に溢れる文化・芸術活動の支援」

目標（評価）

音楽や舞踊など文化・芸術活動の全市的な発表の場や地域間交流を促進するための情報交換や交流活動への支援を行います。

成果指標

評価内容	平成 20 年度計画	平成 20 年度結果
教育委員会が主催する市展・県展・市民芸能祭・大島音楽祭の入場者数 (19 年度 12,669 人)	12,900 人	入場者数合計 13,011 人

施策 2 「文化財の保存と活用のネットワーク化」

目標（評価）

県内最多を誇る指定文化財の保護と活用を図るとともに、未指定の文化財の発掘に努めます。また、文化財情報のネットワークの構築を目指し、提供に努めます。

成果指標

評価内容	平成 20 年度計画	平成 20 年度結果
文化財が保護され、かつ活用されている状態を維持する。	維持する	保護、活用に 継続して取り 組んだ

施策 3 「ふるさと上越を大切にす教育の推進」

目標（評価）

上越の自然、歴史、文化、伝統、産業、人材などの教育環境を生かし、ふるさと上越に根づいた教育活動を推進します。また、学校教育から発展させた学習の場を、全市の学習施設や団体が受け止め、横断的・連続的な教育活動として展開するようにします。

成果指標

評価内容	平成 20 年度計画	平成 20 年度結果
謙信 KIDS スクールプロジェクト事業に参加する子どもたちの満足度。(19 年度 92.7%)	90%以上	95.4%

「ふるさと学習」の趣旨を生かした指導計画を学校ごとに作成する。(19年度、取組なし)	教材開発と周知活動を行う	ファイルを作成し、全校に配布
--	--------------	----------------

施策4 「魅力ある博物館・美術館のための企画や展示の工夫」

目標(評価)

市民が上越地域の歴史、民俗、芸術などにふれる機会を提供し、新しいことを発見できる学習の場、気軽に学べる場としての博物館、美術館にします。また、ボランティアや友の会など、多くの人が集まり、コミュニケーションの拠点となるような施設とします。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
来館者の満足度を概ね80%を維持する(アンケート調査による)。(水族館19年度76.1%)	維持する	水族博物館 満足度83%

基本計画1-1 地域が主体のスポーツ・レクリエーション活動の推進

施策1 「スポーツに対する意識の啓発」

目標(評価)

さまざまな機会を通じて、健康の保持や身体活動の必要性の情報提供を行うように努めます。また、気軽に参加できるスポーツ教室やイベントでスポーツの楽しさを感じる機会を充実させます。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
体力測定会参加者数を増加させていく。(19年度 331人)	参加者350人以上を目指す	参加者数 371人
ニュースポーツ及び市民エクササイズ受講者を維持する。(19年度 15,291人)	維持する	15,098人で 微減したが、 ほぼ維持

施策2 「コミュニティスポーツの充実・発展」

目標(評価)

子どもから高齢者まですべての人が、それぞれの生活圏でスポーツ活動に参加できるように、総合型地域スポーツクラブの育成を支援するとともに指導者、運営管理ができる人の育成を図ります。また、既存の組織活動がより活発になるよう働きかけます。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
総合型地域スポーツクラブの設立数を増加する。(19年度 12クラブ)	13クラブ	12クラブ (新規設立なし)

施策3 「競技スポーツの充実・発展」

目標(評価)

オリンピックに出場するなどトップレベル選手の輩出は市の誇りとなります。スポーツ団体が主体となり、合同練習を行うなど優れた選手の育成に努めます。また、指導者間の連携をとり指導体制を強化するとともに指導者の育成を行います。

成果指標

評価内容	平成 20 年度計画	平成 20 年度結果
上越市出身（ゆかりを含む）の国体出場選手数。 (19 年度 34 人)	30 人以上を維持する	国体選手 34 人

施策 4 「施設の充実と利用の増大」

目標（評価）

身近な施設を有効活用したり、自然環境を生かしたりして、スポーツ環境を充実させるとともに、利用しやすいシステムづくりに努めます。

成果指標

評価内容	平成 20 年度計画	平成 20 年度結果
利用者アンケートによる施設利用時における満足度をあげる。(17 年度 65.9%)	70%以上にする	満足度 70.5%
利用者数の拡大。 (19 年度 約 126 万 4 千人)	前年度より向上	約 138 万 4 千人

基本計画 1 2 安全で安心な教育環境の整備

施策 1 「地域と連携した子どもの安全確保対策の推進」

目標（評価）

安全対策に終わりはありません。常に、見直しと改善をし続ける必要があります。校区内で、子どもたちが安心して通学したり、遊んだりできるような安全対策を、市及び市民等の連携で推進していきます。

成果指標

評価内容	平成 20 年度計画	平成 20 年度結果
どの小学校区においても、地域ボランティアによる児童の登下校の安全を守る「安全安心パトロール」を組織し、実施する。	90%の小学校区で組織ができ、パトロールを実施する。	100%の小学校区で実施

施策 2 「安全な学校施設の整備」

目標（評価）

不審者の侵入を防ぐだけでなく、自然災害や施設における事故に対しても十分に安全を配慮した整備と点検を進めます。

成果指標

評価内容	平成 20 年度計画	平成 20 年度結果
児童生徒が安全で安心して学習活動が行える環境を維持する(施設管理に起因した事故の発生を 0 件とする)。 (19 年度 0 件)	維持する	事故の発生 は 0 件
安全、安心を確保するため、耐震診断、耐震補強設計、補強工事を実施する(耐震化率)。 (19 年度 66.5%)	68.6%	耐震化率 68.8%

施策 3 「安全を意識した教育の推進」

目標（評価）

子どもたちが安全に対して意識を高め、発達段階に応じて自分の身は自分で守ることができるような安全教育を実施します。

成果指標

評価内容	平成 20 年度計画	平成 20 年度結果
交通事故（平均 29 件）、負傷事故（平均 16.7 件）の発生を減少させる。	過去 3 年間の平均件数より減少または維持する	交通事故 27 件、負傷事故 17 件
交通事故や負傷事故、不審者事案から、自らの身を守る方法について学習する取組を実施する。	90%の学校で実施する	100%の学校で実施

基本計画 1 3 バランスのとれた教育行政の推進

施策 1 「学校、家庭、地域がスクラムを組む教育活動の支援」

目標（評価）

学校、家庭、地域が一体になり、共に支え合って教育活動ができるような地域での仕組みづくりを支援します。

成果指標

評価内容	平成 20 年度計画	平成 20 年度結果
各地域の自発性や主体性を尊重しながら、全ての中学校区に「地域青少年育成会議」を設立するとともに、その存在や意図を広く周知し、地域と学校が連携しながら、多くの市民が参加するよう活動を推進する。	モデル地区を設置し、その設立状況を周知することで、「地域青少年育成会議」の啓発を行う	モデル地区の設置により啓発に努めたが、趣旨等が十分浸透しなかった

施策 2 「開かれた教育委員会の推進」

目標（評価）

教育委員と旧町村の前教育委員長等の懇談会の機能を継承発展し、関係機関との懇談や学校等関係施設の訪問などを行い、開かれた教育委員会づくりに積極的に取り組みます。

成果指標

評価内容	平成 20 年度	平成 21 年度
計画的に学校訪問を実施し、市内各校の実態を掌握する（学校訪問、年間 3 回）。（19 年度 3 回）	実施する	3 回（9 校）実施
教育に関係する課題や問題などについて、地域、学校、行政が一体となって課題解決に向けた取組がなされる（教育懇談会、年間 2 回）。（19 年度 2 回）	見直し（1 回実施）	地域青少年育成会議代表者等と懇談 1 回

施策 3 「上越カリキュラムプラン（仮称）の作成」

目標（評価）

地方分権と規制緩和の流れの中で、教育課程上の自由度が広がり、特色ある学校づくりが求められるようになってきました。上越に適した確かな学校教育を展開していくために、上越らしさのあるカリキュラム開発を行います。

成果指標

評価内容	平成 20 年度計画	平成 20 年度結果
各学校が「上越カリキュラムプラン」に基づき、各学校が主体的にカリキュラムを構築している（校長に対するアンケート評価で）。（19 年度 取組なし）	50%以上	50%強の学校が実施

施策4 「教育センターの機能の整備と拡充」

目標（評価）

学校教育を支えるカリキュラムセンターとしての機能を持つとともに教員研修、教育相談、科学教育、情報教育を支える総合教育センターを目指して機能を充実させます。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
各種研修会を実施し、教員の指導力の向上を図る。 (参加者のアンケート評価の満足度、19年度 75%程度)	満足度が80%以上	95%～100%の満足度が得られた
教育相談について広報・啓発、相談者によりそう相談活動で問題の軽減・解決を図る。	満足度が向上する	満足度80%以上の講座が80%以上

施策5 「情報教育の充実と教育ネットワーク環境の整備」

目標（評価）

地域教材、生涯学習などの教育情報データベースの整備やeラーニングシステムを構築し、広域をカバーするICT教育を推進するとともに校務の情報化を進めます。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
教職員のICT活用指導力(文部科学省による調査)を向上させる。(19年30%程度)	「できる」の割合が40%以上	「できる」の割合が72%

施策6 「教育委員会事務局、教育機関の連携」

目標（評価）

市民にとって分かりやすく、効率よい組織の構築を目指します。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
効果的・機能的な組織の見直しを行う。	具体的な見直しが継続的に実施されている	経理事務の統合、連携プロジェクトの実施

基本計画14 特色ある学校教育の支援

施策1 「地域の特色を生かした学校の主体的な教育活動の支援」

目標（評価）

地域に誇りをもち、地域の特色を生かして、学校が主体的に教育活動を展開できるよう支援します。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
夢づくり学校提案活動支援事業において、地域や学校の実態を生かした特色や夢ある活動を行い、取組の効果があつたか。(各校の自己評価書5段階評定の3(おおむね満足)以上の学校数による)(19年度 95%)	自己評価書の特色ある活動と効果の項目の評定3以上の学校数97%	評定3以上の学校が100%

施策2 「校種間の連携の推進」

目標（評価）

幼児期から小・中学校そして高等学校での教育へと子どもの成長に応じた長期的視点での交流、連携を推進します。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
園児にとって円滑な就学ができるように、幼稚園・保育園と小学校が連携し、相互理解を深めるようにする。	80%の小学校が連携し、取り組む	100%の小学校で実施
中学校区における小・中学校が、児童生徒の実態から課題を焦点化し、連携して課題解決に取り組む。	80%以上の中学校区で実施する	100%の中学校区で実施
生徒が、中学校・高等学校の教育を通して、変化の激しい社会をたくましく生き抜いていく力を身につけていくことができるように、中学校と高等学校が連携し、相互理解を深めるようにする。	全中学校において、連携を図る	全中学校において実施

施策3 「学校の教育活動の積極的な広報活動」

目標（評価）

学校の教育活動や教育内容を正しく伝えることは、学校教育への信頼感を高め、市民の教育活動への参加意欲を高めます。学校の教育活動が分かりやすく示されるような広報活動を支援します。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
上越市学校教育支援システムの「おたよりシステム」を活用し、各学校がホームページにより教育活動や教育内容を保護者・地域に伝える。(19年度 70%程度)	毎週更新を行う学校が90%以上	小学校 87%、 中学校 72.7% 全体で 82.9%
夢づくり学校提案活動支援事業の自己評価書(5段階評価)において、保護者・地域との連携に関する項目が3(おおむね満足)以上の学校を増やす。(19年度 小学校 98%、中学校 95%)	3(おおむね満足)以上の学校が80%以上	小中学校とも 100%

基本計画15 教育関係職員の力量形成のための支援体制の整備

施策1 「教育課題に応じた教員研修の推進」

目標（評価）

時代の推移とともに次々と新しい教育課題が生まれます。学校現場の要求に応じた研修支援体制を整備します。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
理科学年別研修、職種・課題別研修、授業力向上研修、学校力向上研修の参加者が研修内容について、満足する。(参加者へのアンケート評価) (19年度 75%程度)	満足の達成度 70%以上の講座が80%以上	3講座について 95%～100%の満足度が得られた

施策2 「社会教育主事の配置の検討と研修体制の整備」

目標（評価）

社会教育分野においては社会教育主事の配置を検討するとともに社会教育に関わる者の研修体制を整えます。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
連携プロジェクト実施のために定期的な研修を実施する。	年間6回以上	10回実施
教育プラン推進プロジェクトを立上げ、社会教育主事との連携や研修のもと、重点施策を推進する。	教育を考える集い、読書活動、教育広報の充実を図る	実施

施策3 「教員相互の情報共有の場の整備」

目標（評価）

小規模校が増加し、中学校では教科部体制がとれないなど教員が相互に相談をする場が少なくなっています。

教職員が孤立し、無力感を感じないようにインターネットなどを利用し、教員相互の情報共有の場を設け、連携の中で自己研修ができるような支援体制を整備します。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
高速インターネット回線を活用した上越教育用ネットワークにおける上越市学校教育支援システムの改善と活用を図る。（平成19年30%程度）	日常的な活用40%を目指す。	日常的な活用をした学校が79.8%

施策4 「力量形成を促す教員評価の工夫」

目標（評価）

学習指導や生徒指導、児童や生徒との関わり方などを自己評価したり、第三者の目から評価し、自己の教師としてのあり方を見つめたりすることは教師として成長する上で重要です。これらの評価でとらえた教師の優れた実践に学び交流するための体制を整備します。

成果指標

評価内容	平成20年度計画	平成20年度結果
各校における教員評価システムの確立とその効果についての教職員一人一人の実感度を高める。	評価システムの確立	100%の学校で実施